

**厚生労働科学研究費補助金（難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業）
分担研究報告書**

地域連携クリティカルパスを活用したC型肝炎診療における地域医療連携の再構築

研究分担者 杉 和洋 国立病院機構熊本医療センター 消化器内科部長

研究要旨 肝炎対策基本法により、C型肝炎診療に関して医療の均てん化が図られるとともに各都道府県に肝疾患診療拠点病院が設置され診療ネットワークが構築されている。実際的な治療においては基幹病院とかかりつけ医の緊密な連携が重要と考えられ、連携のツールとしての地域連携クリティカルパス（連携パス）が広く活用されている。1型高ウイルス量症例で2剤併用療法では50-60%だった著効率は、テラプレビル3剤併用療法では80%に達した。しかしながら副作用の出現頻度が高く、特に皮膚副作用が高率に出現するため皮膚科専門施設連携とともに治療施設が限定され、診療ネットワークが縮小した。第2世代プロテアーゼ阻害薬シメプレビルは従来の2剤併用療法と副作用の頻度が変わらず、90%近くの奏効率が得られる。シメプレビル3剤併用療法において、連携パスを用いることで国が目指す高い根治率と医療の均てん化の両立が推進されることが期待される。

研究協力者

熊本医療センター 消化器内科
持永嵩恵、古閑睦夫、本原利彦、石井将太郎、
尾上公浩、中田成紀

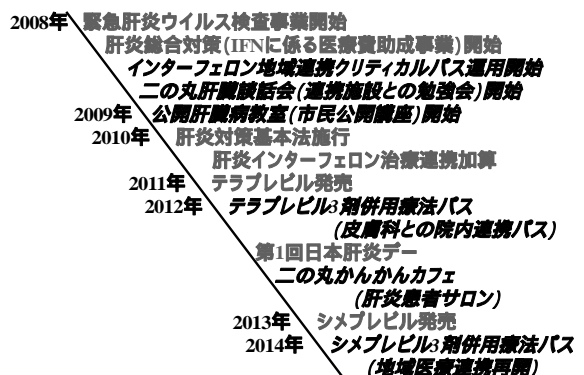
A．研究目的

2010年1月に肝炎対策基本法が施行され、C型肝炎診療に関して医療の均てん化が図られるとともに2008年4月より開始された肝炎治療特別促進事業が見直され、各都道府県に肝疾患診療拠点病院が設置され診療ネットワークが構築されている。実際的な治療においては二次医療圏の基幹病院とかかりつけ医の緊密な連携が重要と考えられ、連携のツールとしての地域連携クリティカルパスの有用性と現在の課題と今後の展望について検討した。

B．研究方法

当院では2008年よりC型肝炎IFN地域連携クリティカルパス（連携パス）を用いて地域医療ネットワークを構築してきた（図1）。連携パスを用いたこれまでの取り組みと成果について時系列に沿って見直し、C型肝炎治療に関する現在の問題点と今後の課題を抽出した。

図1. クリティカルパスを用いた地域医療連携の変遷



2014年1月より新たにシメプレビル3剤併用療法連携パスを作成し、地域医療連携再構築の取り組みを始めた（図5）。

図5. シメプレビル・ベグインターフェロン・リパビル3剤併用療法地域連携クリティカルパス

項目	2014.1.1	2014.2.1	2014.3.1	2014.4.1	2014.5.1	2014.6.1	2014.7.1	2014.8.1	2014.9.1	2014.10.1	2014.11.1	2014.12.1
経過	シメプレビル3剤併用療法開始	シメプレビル3剤併用療法開始	シメプレビル3剤併用療法開始	シメプレビル3剤併用療法開始	シメプレビル3剤併用療法開始	シメプレビル3剤併用療法開始	シメプレビル3剤併用療法開始	シメプレビル3剤併用療法開始	シメプレビル3剤併用療法開始	シメプレビル3剤併用療法開始	シメプレビル3剤併用療法開始	シメプレビル3剤併用療法開始
達成目標	シメプレビル3剤併用療法開始	シメプレビル3剤併用療法開始	シメプレビル3剤併用療法開始	シメプレビル3剤併用療法開始	シメプレビル3剤併用療法開始	シメプレビル3剤併用療法開始	シメプレビル3剤併用療法開始	シメプレビル3剤併用療法開始	シメプレビル3剤併用療法開始	シメプレビル3剤併用療法開始	シメプレビル3剤併用療法開始	シメプレビル3剤併用療法開始
医療機関	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター
医師	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター
検査機関	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター
薬剤師	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター
看護師	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター
事務	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター	熊本医療センター

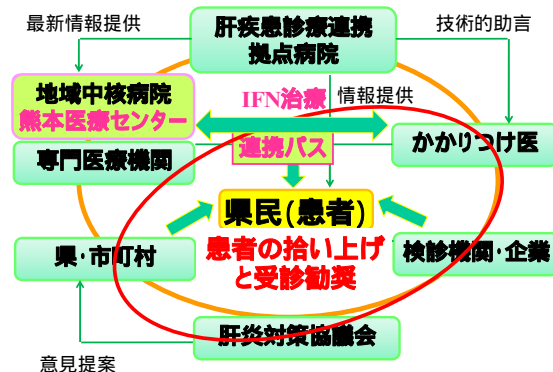
D. 考察

C型肝炎に対するIFN治療の進歩は目覚ましく、1型高ウイルス量でこれまで2剤併用療法では48週から72週間の治療で50-60%だった著効率は、テラプレビル3剤併用療法では24週間と短い治療期間で80%に達している。

しかしながら、皮膚副作用が高率に出現するため皮膚科専門施設連携とともに治療施設が限定され、これまでの地域医療連携ネットワークが縮小し、医療の均てん化から後退している。2013年12月に発売されたシメプレビルは、高い著効率とともに従来の2剤併用療法と変わらない副作用発現率により、これまで構築した地域医療連携ネットワークを再開する可能性が期待される。

また、治療の進歩の恩恵に与る患者人口を増加させるためには、さらなる患者・住民啓発とかかりつけ医の啓発活動を進める必要がある。そのためにも、地域連携ネットワークの再構築が必要とされる（図6）。

図6. 肝疾患診療ネットワークの再構築



E. 結論

2008年より連携パスを用いた地域医療ネットワークが構築されたが、基幹病院を中心とした二次医療圏の診療ネットワークを構築する上で当院での取り組みは一つのモデルとなる可能性がある。シメプレビル3剤併用療法において、連携パスを用いることで国が目指す高い根治率と医療の均てん化の両立が推進されることが期待される。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし。

2. 学会発表

- 1) 杉 和洋、尾上公浩、中田成紀、田中幸子、椿 裕子、真鍋健一. クリティカルパスを活用した肝臓病チーム医療の成果. 日本医療マネジメント学会第15回学術集会、2013年6月、盛岡
- 2) 青木桂子、今村彩乃、桑原千尋、江崎愛理紗、大脇直子、田中幸子、杉 和洋. インターフェロン地域連携クリティカルパス使用患者の『理解度チェック表』の改訂. 第12回日本医療マネジメント学会九州山口連合大会、2013年19月、下関
- 3) 大脇直子、本田華子、江崎愛理紗、本田彩乃、桑原千尋、田中幸子、中田成紀、杉 和洋. 肝臓病ネクサバー. 第16回日本医療マネジメント学会熊本支部学術集会、2013年3

月、八代

4) 杉和洋、尾上公浩、中田成紀、江崎愛理紗、本田華子、桑原千尋、本田彩乃、田中幸子．シメプレビル3剤併用療法地域連携クリティカルパスを活用したC型肝炎診療地域医療連携の再構築 .第16回日本医療マネジメント学会熊本支部学術集会、2013年3月、八代

5) 杉和洋、尾上公浩、中田成紀、江崎愛理紗、本田華子、桑原千尋、本田彩乃、田中幸子．シメプレビル3剤併用療法地域連携クリティカルパス .第16回日本医療マネジメント学会熊本支部学術集会、2013年3月、八代

G . 知的財産権の出願・登録状況

なし。